

DXデータセンターの構築により、国土交通省の直轄事業の業務や工事で作成されるBIM/CIMを一元的に保管し、保管したデータの表示や検索、BIM/CIMを共有したWEB 会議等を行うことが可能となる。今後は、施工管理と検査、構造物点検、災害対応等の現場においてBIM/CIMをさらに広く活用できる環境を整備するために、現場で使用するタブレット端末等を介してDXデータセンターに接続し、BIM/CIMを容易に取り扱うことができるアプリケーションソフトを開発し、実装していく予定である。

## 2) 国土交通データプラットフォームの構築

上記BIM/CIM等の3次元データを含む各種データを連携する基盤として、「国土交通データプラットフォーム」の構築にも取り組んでいるところである。これまで、国・地方自治体の保有する橋梁やトンネル、ダムや水門などの社会インフラ（施設）の諸元や点検結果に関するデータ約8万件、全国のボーリング結果などの地盤データ約25万件、平成30年度の発注の直轄工事のBIM/CIMデータ10件と3次元点群データ約570件、地方公共団体の電子納品

データ約200件、さらに、全国幹線旅客純流動調査のデータや浸水想定区域等の防災に関するデータ等の表示・検索・ダウンロードが可能となっている。

今後は、3次元データを含む電子成果品のほか、他省庁や民間、地方公共団体などが保有するデータとの連携拡大に取り組んでいく予定である。

## 5. おわりに

本稿では、国土交通省が推進しているインフラ分野のDXの取組について紹介した。新型コロナウイルス感染症の発生を契機に時代の転換点を迎える中、陸海空のインフラの整備・管理により国民の安全・安心を守るという使命と、より高度で便利な国民サービスの提供を担う国土交通省が、学界や民間と連携・協調を図りつつ、インフラ分野のDXの先導役を果たしていきたいと考えている。

注意) 本稿は執筆時点(令和3年11月中旬)での情報である。インフラ分野のDXの最新状況については、国土交通省HPなども適宜、参照されたい。

### 【著者紹介】 田中 洋介 (たなか ようすけ)

平成22年国土交通省入省(土木職)。道路局高速道路課係長、外務省在ミャンマー日本国大使館二等書記官、東北地方整備局道路部道路計画第一課長、内閣官房(インフラ投資推進担当)参事官補佐を経て、2021年10月より現職。

詰 碁

黒 先

出題 土井 誠 八段

[ヒント]  
白のダメヅマリをとがめる基本的な手筋です。

[あなたの棋力は?]  
5分……………二段  
(解答は80頁)

詰 将 棋

出題 石田 和雄 九段

[ヒント]  
初手に絶妙手あり。

[あなたの棋力は?]  
5分……………二段  
10分……………初段  
(解答は80頁)